

随想

「君臣水魚の交り」の破綻するとき



就実大学 前学長 柴田 一

池田光政といえ、誰でもすぐに連想するのは熊沢蕃山である。光政と蕃山、この二人を結びつけたのは儒学である。二人の出会い、蕃山が光政に再仕して二年後の正保四年、(一六四七)光政三九歳、蕃山二九歳であった。蕃山は、この時が主人光政の儒学開眼のときであり、自分の学者としての名声が世に広まる端緒であったと記している。

この出会いが契機となって、光政は蕃山を全面的に信頼し、慶安三年(一六五〇)には知行三千石、番頭(ばんとう)に起用し、重臣の列に加え、藩主補佐に当らせた。しかし、蕃山の活躍期間は承応・明暦年間(一六五二-一六五七)の僅か数年にすぎなかった。その間「名君賢相」の名を高らしたのは、承応三年(一六五四)の大洪水、大飢饉のときの飢人救済活動であった。儒学を開眼していた光政は、この洪水を不徳な自分に対する天の戒めと捉え、罪なくしてこの災難に遭った領民に同情し、飢人の

福武教育振興財団は、岡山県下の教育の発展を図るために教育助成をはじめ、各種の事業を展開しています。今年もその一環として第15回目の「海外教育事情調査団」を結成し、10月9日から16日までの8日間の日程で発展しつつある中国の広州とベトナムのハノイで、情報教育と外国語教育について調査、研究する予定です。団員は岡山県下の公的機関または団体から推薦

海外教育事情調査団

された学校の先生や教育行政関係者で結成しています。当財団の森崎岩之助常任理事を団長として総勢18名で現地の教育省や学校を訪問したり、教育関係者と情報交換を行ったります。調査の成果は後日「海外教育事情調査報告書」として、岡山県下の学校園や教育関係機関に配布する予定です。(赤松)

君賢相」の名譽を汚すことになったためか、光政・蕃山の対立とその原因に論及した研究はなかったが、やっと解明することが出来た。原因は、寛文四年(一六六四)の頃、光政が始めた「評定所政治」であった。評定所はもともと家老や側用人など重臣が会して政事を論ずる重役会議であるが、光政はこれに諸役人、諸奉行も随時参加させ発言することを許した。これが「評定所政治」で、光政はこれを権臣の出現防止、微禄の人材の登用、きめ細かな政治にきわめて有効と考えた。それに対し、真向から反対したのが蕃山である。役人が藩政に関与すると、必ず細かすぎ、



(福武文化振興財団 理事)

編集後記

◆本年度に入り、両財団の主要事業であります文化賞・教育賞および助成関係の贈呈式をそれぞれ行いました。本号はその報告や、受賞者・助成対象者の方々を中心に寄稿をいただき、紙面の構成をいたしました。

◆教育や文化には数多くの分野があり、研究や活動の内容にはさまざまなものがあります。今回寄稿をいただいた方々の文章を拝読し、その一つ一つが教育や文化を支え、これらが一体となって人と地域が輝く岡山県づくりに役立つことを改めて感じました。

◆本号の編集に当たっては、多くの方にご助力いただき、感謝いたします。今後とも両財団は岡山県の教育と文化の振興という設立目的に向かって努力して参りますので、ご支援とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。(野間)

今後の行事予定

●教育講演会・教育研究発表会  
日時：11月19日(土)  
場所：ピュアリアイマキび

不易

福武文化賞

奨励賞は 佐故龍平氏(金工作家)・川禁龍三氏(造形作家)・撫川うちわ保存会「三杉堂」・岡山市ジュニアオーケストラ・みゅーじかる劇団きんちゃんい座

岩崎淑氏(ピアニスト)・岩崎洸氏(チェリスト) 坂本明子氏(詩人)が受賞

財団法人福武文化振興財団は、7月4日、「平成17年度第6回福武文化賞・同奨励賞及び第9回文化活動助成の贈呈式」を、岡山プラザホテルで行いました。福武文化賞は、日本クラシック界の時代を支えてきた代表的なピアニストの岩崎淑氏・チェリストの岩崎洸氏と、長年にわたり精力的に詩作活動を続け多くの優れた作品を発表している詩人の坂本明子氏が受賞されました。

福武文化奨励賞は、金工作家の佐故龍平氏、造形作家の川禁龍三氏、撫川うちわ保存会「三杉堂」、岡山市ジュニアオーケストラ、みゅーじかる劇団きんちゃんい座が受賞されました。同財団の福武総一郎理事長は、「これからの日本は、個性と魅力ある地域の集合体であっていいと思います。地域を活かし、



福武文化賞・同奨励賞受賞者を囲んで来賓と財団関係者

福武哲彦教育賞に2団体 岡輝中学校区地域学校協議会

さらなる成果を上げられることを期待しています。」とあいさつし、受賞者一人ひとりに、

財団法人福武教育振興財団は、7月22日、「平成17年度福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育奨励賞および教育関係助成贈呈式」を、岡山プラザホテルで行いました。福武哲彦教育賞は、社団法人ガールスカウト日本連盟岡山支部は、ガールスカウト日本連盟岡山支部は、ガールスカウトの原点に立って長年続けられてきた実践は他の模範であり、青少年教育の方向性を示していることが評価されました。

表彰状とメダル、副賞目録を贈呈いたしました。これと同時に伝統文化の振興や現代文化の発展のために意欲的に活動している64の個人・団体の代表者に文化活動助成の助成証書と目録を贈呈いたしました。



教育関係受賞者および助成を受けた方々と来賓・財団関係者

岡輝中学校区地域学校協議会は、地域・学校・行政が一体となって緊密な連携を保ち、独創的な事業により地域の活性化と青少年の健全育成の実績が評価されました。また、谷口澄夫教育奨励賞は、学校法人希望学園学園長の井上昭三氏、県立鳴方高等学校の大島修氏、県教育庁指導課指導主事藤枝茂雄氏の3個人と、倉敷市立万寿小学校、高梁市立高梁中学校の2団体に贈られました。教育関係助成では、教育研

# 詩の栄えを

福武文化賞受賞によせて

坂本 明子



会場がえらばれたりするようになりまし。そして「岡山の詩によせる心は熱いよ」と全国的な

夏生まれの私は毎年の七月八月をとくにきげんよく過ごすのですが、今年には思いがけず福武文化賞を頂いて、受賞式や祝賀会に出席させてもらい、胸をときめかせつつ過ぎてしまいました。生涯忘れ得ぬものと厚く御礼申し上げます。

詩を書いて何が二番得ることかとよく問われますが、特に形にしてとらえられないけれど、自分の在り方が少しづつ深さを増すのが分かる点。

想像力の自由さを味わうことができる点。など言えそうです。

(創作の場ではどれも同じと言えるでしょうが)体については自分の視点から撫でたりさすたりできますが、心はささやかな喜怒哀楽にふりまわされます。でも、三行でもそれを文字で表現しようとするれば、書き方を研究しなければ書く意味がない。都合よく適切な書き方で出来上ったり、共鳴する読者も近よってくるが、それでも碎けてしまふきびしさ。変化もふくめて自分

のする作業だから、そのふんいきは自分の宝になると思います。想像力はたのしいもので、自分ここに居ても野原を駆けまわると思っている。大樹の枝を登って樹液を飲んでいい。空も飛べる。海ももぐれる。私が心の健康を問う直すのを知ったのがこの方法でした。いつも傑作ができるわけではないから、同人誌などに参加して同好の人たちと共通の話題がもてるようにしたり、発表するのは恥ずかしさもあるが、その時の視点を後日追求して発見があることも大切です。

皆さんご存知のように、岡山は連島ご出身の薄田泣穂氏が明治期のなごころから新しい詩のとり入れに力を尽くされ、名作を世に問われました。

大正期は有本芳水氏や竹久夢二氏などでぎやかに昭和初期になると詩を書く人がふえたようです。戦後期になるとさうはげしく詩誌の発行がふえ、所属した同人の方々の詩集発行がふえ、全国大会などもこの街の



どうぞ今後よろしくお願いたします。

取り沙汰になつてゐるのが聞こえてきます。岡山は気候温暖、海からも陸からも産物があり天災が少なく、暮らしやすいとこれは定評があります。

この豊かな風土を背景にもつと人間探求の新しい角度からの詩作者がふえ、詩作品がふえて互いの未来を励ましやうるおいで満たしていくようにしなければ、と考へてしまいます。力乏しく、どこまで具体化した仕事になし得るか不安も大きいのですが、書きつづけて私も少しでもお役に立ちたいと願っています。

# 平成17年度文化活動助成を受けて

津山市田熊町内会 会長 久常 敏泰

我が町には明治4年に建築された、国指定の重要有形文化財「田熊の舞台」があります。町内唯一の文化の殿堂であり、明治・大正・昭和までは、歌舞伎をはじめ舞踊・歌謡など娯楽や住民の交流の場でありました。しかしながら昭和末期より娯楽指向も変わり、その利用もされない状況が続いていました。

建物は、傷みが進み倒壊が危惧される状況にまで老朽化



地元代表が舞う三番叟(さんばそ) (歌舞伎開幕に舞台を清め、大入に感謝する舞)

してしまいました。

貴重な文化財を放置してはならぬと修復工事に取り組み、3年後の昨年末に工事が完了しました。

この事を契機に、舞台活用委員会が組織され、地下芝居、八幡ふれあい太鼓、舞踊等のグループが発足し、本年5月1日、舞台修復記念公演が開催されました。35年ぶりにみた地下芝居には住民も大感激でした。

今後は、舞台の保存を充分に行うと同時に伝統的芸能文化の育成と継承をしなければならぬと検討を重ねているところです。

期を二つにして今回貴財団に応募させていただきましたところ、文化活動助成を受ける機会に恵まれました。この上ない喜びであります。

舞台活用計画にも二層の弾みがつきます。

これからは、定期的な舞台公演ができるよう努力いたします。心より感謝とお礼を申し上げます。

# 平成17年度

## 英語教育重点地区・校への助成を受けて

岡山県立岡山城東高等学校 校長 大島 吉則

本校が岡山市の東部に新設校として誕生して早いもので来年は20年を迎える。この間、学校の魅力「生徒が生き生きと活動している学校、文武両道を目指す学校、豊かな感性をはぐくむ学校」が輝くよう、様々な取り組みを行ってきた。なかでも、英語教育は本校教育の重要な柱のひとつであった。

研究を終え、いくつかの課題が残された。ひとつは、十分深めることができなかった研究内容の継続であり、今二つは、研究で得られた教育資産の他との共有である。

今後は、本校に与えられた役割を今一度とらえ直し、前述の課題に応えるべく努力を継続したいと考える。こうした点から、本校が福武教育振興財団からご援助いただくことに心から感謝申し上げます。



かしてきたものが三つあります。それは、「つめは、教育においては、「敬」、「愛」、「信」という三つの心

# 谷口澄夫先生の教えを胸に

岡山県教育庁指導課 指導主事 藤枝 茂雄



このたびは、栄えある谷口澄夫教育奨励賞をいただき大変光栄に感じております。教育に関する職務に携わる者として、教育界に大きな功績を残された谷口先生ゆかりのこの賞をいただけて本当にうれしく思います。

私には谷口先生がお元気なころ、何度か先生とお会いする機会がありました。そのときに先生からいただいた教えの中で、常に心にとめながら教育研究や実践に生

を特に大切にすべきこと、二つめは、「不易と流行」、つまり、さまざまな新しいものを取り入れながらも、常に変わらない教育というもの、本質は何かということを問いつけること、そして三つめは、研究の精度の高さを常に追求する姿勢です。

ところで、これまでの自分自身の研究実践の領域を振り返ってみますと、デュイイの民主主義思想に基づく特別活動論と生徒会活

動、メキシコ日本人学校における現地理理解教育、そして、中学校の社会科学教育における課題解決的な学習というように、その対象は勤務校とその時々々に置かれた状況によって変化していきました。しかし、これらの研究実践のいずれにおいても、その基盤をなすのは教師と生徒の協同活動であり、つねに新しい教育の流れや創意工夫を取り入れた学習活動の中、教師と生徒、あるいは生徒間におけるお互いへの敬意、友愛、信頼と

あります。しかし、岡山市内には、谷口先生の教えをうけられた多くの立派な方々が教育界で活躍しておられます。そうした先生方からも、より多くのものを学んで教育に関する研究や実践を今後にも続け、岡山県の教育の発展に少しでも貢献することができようを精進していきたいと考えております。



授業(ディベート)風景